甲斐市立敷島南小学校 自己評価書

令和7年1月31日（金）作成

校長 五味 正年

記述者 教頭 堀内 貴司

学校教育目標

「豊かな人間性とたくましく生きぬく力を身につける子どもの育成」

- 具体目標
- ・明るく健やかな子ども
 - ・心豊かで思いやりのある子ども
 - ・よく学びよく考える子ども
 - ・進んで行動し やりぬく子ども

学校経営方針

- (1) 授業を中心に、教育活動全体を通して、教育目標の具現化に努める。
- (2) 「子どものために」を基本とし、子どもの人権を尊重した児童理解に努め、子どもの居場所づくりを進める。
- (3) 適切な児童理解と受容的・共感的態度に基づく指導に努める。
 - ・受容と許容を区別し、「チーム敷南」としてしっかりと軸を持った指導を行う。（話を受けとめても、許してはいけないことはしっかり指導する。）
 - ・いじめについては、未然防止のための取組を行うと同時に、全教職員の目で早期発見・早期対応を心がける。
- (4) 誠意をもち、児童・保護者・地域とともにある信頼される学校作りに努める。
 - ・学校ホームページの更新などの学校情報の発信並びに学校公開に努める。
 - ・保護者、地域の思いや願いに寄り添う開かれた学校、特色ある学校の具現化に努める。
 - ・家庭・地域との連携によるPTA活動の充実、地域学習の素材や人材の活用、外部講師の招請など、それぞれの教育力を生かす中で、地域に根ざした教育の推進に努める。
- (5) 子どもも教職員も育つ学校づくりに努める。
 - ・集団への所属感、自己有用感、成就感を味わわせる教育を推進し、児童個々の能力や個性を伸ばすよう努める。
 - ・自他の生命を尊ぶ教育を推進するとともに教職員・児童の心身の健康管理に努める。
 - ・学習指導要領の理念を共有し、教職員の意識改革や授業改善につながる授業研究を主体とした同僚性、協働性のある校内研修を推進する。
 - ・教職員一人一人が学校経営への参画意識を持ち、個々の能力や個性を生かし組織的・計画的・継続的な教育活動を構築する。
- (6) P（計画）D（実践）C（点検）A（見直し）の組織マネジメントサイクルを活用し、説明責任と結果責任を果たすことのできる教育活動に日々努める。
- (7) 特別な支援の必要な児童に対する指導、援助について学校全体で対応する体制を構築し、ニーズに応える教育を推進する。
- (8) 学校が地域住民等と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校づくり」の推進（コミュニティスクール）

1 全体評価 回答 A：とてもそう思う B：そう思う C：ややそう思わない D：そう思わない E：わからない

○学校経営方針に基づき、教育目標の実現に向けて、一人一人の教職員がそれぞれの職務を遂行したことにより、今年度の自己評価、児童用アンケート及び保護者用アンケートの結果は、全体的に肯定的回答の割合が高かった。このことから、敷島南小学校の総合評価は、良好な水準にあると考えられる。

【教職員】

- ・いくつかの設問において、否定的回答（C・D）が若干名あるものの、全設問において、肯定的回答（A・B）の割合が高い。全教職員による学校教育目標の具現化に向けた取組がなされていると言える。

【児童】

- ・肯定的回答（A・B）の割合が高く、児童は生き生きと学校生活等を送っていると感じられる。

【保護者】

- ・全体的にB回答が多いものの、ほとんどの設問において、肯定的回答（A・B）の割合が高い。学校の教育活動に関する設問においては、肯定的回答（A・B）の割合が高く、多くの保護者

が、学校の教育活動に対して信頼を寄せているとうかがえる。また、家庭の教育活動に関する設問においても肯定的回答（A・B）の割合が高い。

【家庭での生活において改善したいことは、以下の通りである。】

- ・「（お子さんは）家で、スマホ・タブレット・ゲーム機・パソコンを、学習以外で、一日あたりどのくらいの時間、使いますか。」
 <児童 Q19> 「4時間以上使っている。」 63人
 <保護者 Q15> 「4時間以上使っている。」 38人
- ・「朝ごはんを食べて登校していますか。」
 <児童 Q21> 「あまり食べていない。」 21人, 「食べていない。」 3人
 <保護者 Q17> 「あまり食べていない。」 9人, 「食べていない。」 2人
- ・「月曜日から金曜日までは、何時くらいに寝ますか。」
 <児童 Q22> 「午後11時以降」 15人
- ・「（お子さんは）家で平日一日あたりどのくらいの時間、読書をしていますか。」
 <児童 Q18> 「全くしない。」 82人
 <保護者 Q14> 「全くしない。」 148人

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

Aとてもそう思う Bそう思う Cややそう思わない Dそう思わない

I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況	<p>○全体的に、肯定的回答（A・B）が多かった。校長のリーダーシップのもと、学校教育目標達成に向けた学校経営が行われていると捉えることができる。</p> <p>・以下の設問は、C回答あり。 I-3「あなたは、学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている。」 I-5「あなたの学校は、特別支援教育の体制を整え、教育活動を行っている。」の設問において、C回答1人。</p>
改善策	<p>◆子どもたちにとって、学校教育活動が実のあるものとなるよう、教職員一人一人が日々の教育実践を振り返り、改善を図っていく。</p> <p>◆学期ごとに行われる特別支援校内委員会では、より良い支援体制ができるよう、検討を重ねていく。</p>

II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）

達成状況	<p>○全体的に、肯定的回答（A・B）が多く、教職員それぞれが、敷島南小教職員であると自覚し、主体的に、協力して、学校運営に参画していると捉えることができる。</p> <p>・II-3「あなたは、他の教職員と連携して協働体制で、教育活動にあたっている。」の設問は、A回答が73.5%である。教職員数が約40名であるが、一人一人がチーム敷島南小の一員として取り組むことができている。</p> <p>・II-4「あなたは、職務上『報告、連絡、相談、確認』を行っている。」の設問は、A回答が67.6%である。何か問題が発生した時はもちろんのこと、何事も管理職に相談できる職場の体制が整っているとと言える。</p> <p>・II-2「あなたは、個人情報保護・情報セキュリティの観点から、諸表簿や文書、記憶媒体を適切に管理・活用している。」の設問は、A回答が64.7%である。情報管理がしっかりなされていると言える。</p>
------	---

	<p>・以下の設問は、C回答、D回答あり。</p> <p>II-6「あなたは校務支援システム十分活用できている。」C回答5人 II-7「あなたは、業務の効率化等の働き方改革を意識して職務にあたっている。」 C回答4人</p> <p>II-1「あなたは、危機管理マニュアルを（防犯、防災、事件、事故等）を理解している。」 C回答1人、D回答1人</p> <p>II-3「あなたは、校内研究（研修）に主体的に関わっている。C回答2人、D回答1人 II-8「あなたの学校は、よりよい学校運営に向けて、職員会議が機能的に行われている。」 C回答が2人</p> <p>○学校が、児童にとって好意的な場所となっている。 ※（%）の数值は、肯定的回答（A・B）の割合</p> <p>【児童 Q1】「学校は楽しいですか。」91.9% 【保護者 Q1】「お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う。」89.9%</p>
改善策	<p>◆働き方改革を意識し、校務支援システムの有効活用、会議の機能的実施、教材等の共有や連携、支援体制の整備などを一層推し進め、教職員が本来の業務に専念できる環境をさらに整えていく。</p> <p>◆自然災害や事故、不測の事態の時に、迅速、的確に対処できるようにするためにも、定期的に「危機管理マニュアル」に目を通す機会を設ける。また、避難訓練は、実際の場面に生かすことを意識しながら、臨場感ある訓練を今後も行っていく。</p>
<p>III 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）</p>	
達成状況	<p>○全体的に、肯定的回答（A・B）が多かった。児童の学力向上のために、より良い授業、授業改善に向けて、教職員一人一人が学習指導に取り組んでいると言える。</p> <p>・III-2「個に配慮した基礎、基本の定着を図る授業を行っている。」の設問が、A回答51.7%であり、最も高い割合である。</p> <p>・III-4「ICTを効果的に活用した授業を行っている。」の設問は、A回答34.5%であり、他の設問に比べて、最も割合が低い。</p> <p>・以下の設問は、C回答あり。</p> <p>III-3「指導と評価の一体化に努めた授業を行っている。」C回答2人 III-4「ICTを効果的に活用した授業を行っている。」C回答4人 III-5「協働的な学びを取り入れた授業を行っている。」C回答1人 III-6「あなたは、やまなしスタンダードに沿った授業づくりを行っている。」 C回答1人</p> <p>※「（%）」の数值は、肯定的回答（A・B）の割合</p> <p>【児童 Q5】「先生はよく勉強を教えてくださいますか。」98.1% 【保護者 Q8】「学校は熱心に授業に取り組んでいると思う。」90.9%</p> <p>【児童 Q26】「クロームブックを使った授業は、役に立っていますか。」96.8% 【保護者 Q24】「クロームブックを使った学習は、ためになっていると思う。」 74.4%</p> <p>【保護者 Q23】「学校は、クロームブックを使った学習に、 力を入れて取り組んでいると思う。」72.2%</p>

	<p>【児童 Q16】「宿題を忘れずにしていますか。」 92.7%</p> <p>【保護者 Q12】「お子さんは、宿題（課題）を忘れずにしていますか。」 93.6%</p> <p>【児童 Q6】「国語の授業の内容はわかりますか。」 91.8%</p> <p>【児童 Q7】「算数の授業の内容はわかりますか。」 89.6%</p> <p>【保護者 Q9】「お子さんは、授業の内容がわかっていると思う。」 83.8%</p> <p>【児童 Q4】「学校の授業は楽しいですか。」 87.6%</p> <p>【児童 Q8】「外国語の授業は好きですか。」 80.4%</p> <p>【児童 Q9】「授業（勉強）でわからないことがあったら、先生に聞いていますか。」 73.3%</p> <p>【児童 Q16】「学校以外で学年の目標時間の勉強をしていますか。」 66.6%</p> <p>【保護者 Q13】「お子さんは、宿題の他にも家庭で自主学習（学校からの指示は含む。但し、塾や家庭教師は、除く）をしていますか。」 41.1%</p> <p>【児童 Q11】「字をていねいに書くようにしていますか。」 83.7%</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業における一人一台端末（クロームブック）の使用は定着してきているので、誰もがICTを効果的に活用した授業を実践できるよう、研修を深めていく。また、クロームブックでの宿題の機会を増やしたり、教室での取組の様子を積極的に保護者に発信したりしていく。 ◆児童にどのような力をつけていくのかを明確にし、毎時間の授業をしっかり計画し、実践していく。そして、主体的・対話的で深い学びの学習となるよう、工夫していく。 ◆今後も、家庭学習の大切さとポイントを示した「家庭学習の手引き」を全家庭に配付し、学校と家庭が連携していく。
<p>IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）</p>	
達成状況	<p>○全体的に、肯定的回答（A・B）が多かった。教職員それぞれの努力、家庭・関係機関との連携、また、情報を共有し、全教職員共通理解のもと、指導にあたることにより、児童は落ち着いた雰囲気の中で生活ができていると言える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IV-2「あなたは、児童生徒理解のためにコミュニケーションを図っている。（対：児童生徒）」の設問がA回答63.6%であり、最も高い割合である。 ・IV-4「あなたは、キャリア教育（キャリア・パスポートの活用・進路指導など）を児童生徒の実態に応じて行っている。」の設問はA回答41.9%であり、他の設問に比べて最も割合が低い。 ・以下の設問は、C回答、D回答あり。 <ul style="list-style-type: none"> IV-1「あなたは、民主的で規律ある学級・学年・学校集団づくりを行っている。」 C回答1人 IV-4「あなたは、キャリア教育（キャリア・パスポートの活用・進路指導など）を児童生徒の実態に応じて行っている。」 C回答1人、D回答1人 IV-6「あなたの学校は、生徒指導の課題について、全教職員の共通理解の下、取り組んでいる。」 C回答1人 <p><規範意識> ※（%）の数値は、肯定的回答（A・B）の割合</p> <p>【教職員IV-3】「あなたは、児童の規範意識をはぐくむ指導に取り組んでいる。」 100%</p> <p>【児童 Q12】「学校のきまりや約束ごとを守っていますか。」 93.6%</p> <p>【保護者 Q7】「学校は、子ども達の間違った行動などに対して、指導していると思う。」 84.5%</p>

	<p><教職員と保護者及び児童の信頼関係> 【教職員IV-2】「あなたは、児童理解のためにコミュニケーションを図っている。」 100% 【児童 Q12】「こまったことがあったら、相談できる先生がいますか」 A回答いる：79.4% 【保護者 Q10】「お子さんのことで、相談できる先生がいますか。」 A回答いる：78.3%</p> <p><将来の夢や希望> 【児童 Q25】「将来の夢や希望をもっていますか。」 84.9% 【保護者 Q22】「お子さんは将来の夢や希望をもっていますか。」 75.8%</p> <p><友達関係> 【児童 Q2】「クラス（学年）に仲の良い友達がいますか。」 97.2% 【保護者 Q2】「お子さんの仲の良い友達を知っている。」 92.8% 【保護者 Q3】「お子さんは、困ったことがあった時に相談などのできる友達がいますか。」 64.1%, (E回答わからない: 19.5%)</p>
改善策	<p>◆「子どもの心を大切にする。」をキーワードに、児童との積極的対話や関わりを増やす中で信頼関係を築き、児童が何か困ったことがあった時には、いつでも教職員に相談できるよう、良好な教育環境づくりに努める。</p> <p>◆いじめ、不登校等に対しては、教職員一丸となって、きめ細かな指導、支援を行う。また、いじめや問題行動の早期発見に留意し、迅速で正確な事実確認のもと、校長を中心に学校組織として早期対応を図るとともに、再発防止や予防に努めていく。</p> <p>◆児童が自己を見つめ、将来の夢や希望をもつことができるように、キャリア・パスポートの取組をしっかり行う。また、ただ単に勤労観、職業観を指導するのではなく、道徳教育をはじめとして、教育活動全般で、豊かな人間性や様々な能力などの育成を通じて、意図的、継続的にキャリア教育を推進していく。</p>
V 地域との連携について	
達成状況	<p>○全体的に、肯定的回答（A・B）が多かった。保護者を含め、地域と連携しながら、教育活動が行われていると言える。</p> <p>・V-6「保護者や地域と連携し、良好な関係づくりに努めている。」の設問が、A回答65.6%であり、最も高い割合である。</p> <p>・以下の設問は、C回答、D回答あり。 V-1「あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。」 C回答1人、D回答1人 V-3「あなたの学校は、学校の教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。」 C回答1人 V-5「あなたは、保護者や地域連携し、良好な関係づくりに努めている。」 C回答1人 V-4「あなたは、PTA活動に積極的に参加している。」 C回答が3人 【保護者 Q11】「PTA活動に参加していますか。」 66.5% ※「（%）」の数値は、肯定的回答（A・B）の割合</p> <p><学校の様子を知る機会> 【保護者 Q6】「授業参観や学校開放日などは、子どもの様子を知る機会になっている。」 96.8% 【教職員 V-3】「あなたの学校は、学校の教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。」 97.1% 【保護者 Q4】「学校（学年・学級）だよりやホームページなどから教育活動の様子を知ることができる。」 92.1%</p>

	<p><保護者・地域の声に耳を傾けている。> 【教職員 V-2】「あなたの学校は、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。」100% 【保護者 Q5】「学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けていると思う。」75.9%</p> <p><地域の行事参加> 【児童 Q24】「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」68.4% 【保護者 Q21】「お子さんは今住んでいる地域の行事に参加していますか。」65.3%</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ◆今年度も、地域探検、公共施設等の社会科見学、福祉、絵画や企業などの出前授業の機会を設け、地域の方による学校教育への参画があった。今後も地域の教育力を生かした教育実践を行っていく。 ◆学校が教育活動を円滑に進めるためには、保護者や地域の理解と協力が不可欠である。日頃のコミュニケーションを大切に、情報を発信したり、保護者や地域住民の意見や要望に、誠意をもって対応したりして、相互の信頼関係を築く努力を続けていく。 ◆今年度も、体育、家庭科、生活科の学習におけるボランティアとして、多くの保護者に御協力いただいた。学習活動の補助、環境整備を含め、PTA活動は、今後も保護者の協力を求めながら行っていく。
VI 学校の特色に関して	
達成状況	<p>○全ての設問が、B回答よりもA回答が上回った肯定的回答（A・B）であった。「学校の特色〔道德教育の充実、学校行事や児童会活動の取組、掃除の取組、あいさつの取組〕について、教職員全体の共通理解が図られ、教育活動が行われていると言える。</p> <p>・以下の設問は、C回答あり。 VI-1「あなたは、道德教育が充実したものになるよう、指導に努めている。」C回答1人</p> <p><道德教育の充実> ※（%）の数値は、肯定的回答（A・B）の割合 【教職員 VI-1】「道德教育が充実したものになるよう、指導に努めている。」96.9% 【児童 Q3】「人がこまっているときは、進んで助けていますか。」89.3%</p> <p><学校行事や児童会活動> 【教職員 VI-6】「学校行事や児童会活動に児童が進んで取り組むよう、指導に努めている。」100% 【児童 Q27】「学校行事や児童会活動に、しっかり取り組んでいますか。」92.4% 【保護者 Q25】「学校行事や児童会活動を通して、成長が見られますか。」91.6%</p> <p><清掃活動> 【教職員 VI-3】「児童が進んで掃除に取りくむよう、指導に努めている。」100% 【児童 Q15】「清そう活動をしっかりしていますか。」95.8%</p> <p><あいさつ> 【教職員 VI-3】「児童が進んであいさつに取り組むよう、指導に努めている。」100% 【保護者 Q19】「ご家庭では、お子さんに進んで挨拶をするように言っていますか。」89.9% 【保護者 Q20】「学校は、子ども達に学校以外でも挨拶をするように指導していると思う。」70.3%</p>

	<p>【児童 Q23】「だれとでもあいさつをしていますか。」 84.5%</p> <p>【保護者 Q16】「ご家庭では、家族で互いに挨拶をしていますか。」 95.1%</p> <p><委員会活動・お手伝い></p> <p>【児童 Q14】「委員会活動にしっかり取り組んでいますか。」 97.7% (高学年)</p> <p>【児童 Q28】「家で、お手伝いをしていますか。」 80.5%</p> <p>【保護者 Q26】「ご家庭では、お手伝いをさせていますか。」 75.1%</p>
改善策	<p>◆今後も、学校の特色を生かした教育活動が充実したものになり、児童が生き生きと学校生活を送れるように、全教職員が協力して推進していく。</p> <p>◆学校行事においては、児童に達成する喜びや充実感を味わわせることができるよう、取組を工夫していく。</p> <p>◆道徳授業参観の実施や、日頃から心の教育を充実させていく。</p> <p>◆挨拶や清掃、委員会活動の活性化のために、児童会を中心に内容を工夫しながら日々取り組んでいるが、教職員も模範を示しながら、しっかりと後押しをしていく。</p>
VII 創甲斐教育について	
達成状況	<p>○全体的に、肯定的回答 (A・B) が多かった。「創甲斐教育」について、教職員全体の共通理解が図られ、教育活動が行われていると言える。</p> <p>・以下の設問は、C回答あり。</p> <p> VII-3「あなたは、児童の体力向上や健康指導に努めている。」 C回答1人</p> <p><読書活動> ※ (%) の数値は、肯定的回答 (A・B) の割合</p> <p>【教職員 VII-1】「あなたは、児童が積極的に読書活動に取り組むよう、指導に努めている。」 100%</p> <p>【児童 Q18】「月曜日から金曜日までは、家や図書館などで、一日あたりどの時間、読書をしていますか。」</p> <p> D回答 (30分より少ない) 31.2% E回答 (全くしない) 20.4%</p> <p>【保護者 Q14】「お子さんは、家で平日一日あたりどのくらいの時間、読書をしていますか。」</p> <p> D回答 (30分より少ない) 38.0% E回答 (全くしない) 36.5%</p> <p><表現力></p> <p>【教職員 VII-2】「あなたは、様々な場面、活動において、児童の表現力を高める取組を行っている。」 100%</p> <p>【児童 Q10】「人前でしっかりと自分の意見を言うことができますか。」 69.9%</p> <p><体力向上></p> <p>【教職員 VII-3】「あなたは、児童の体力向上や健康指導に努めている。」 97.0%</p>
改善策	<p>◆毎週月曜日の朝の読書活動、定期的な図書だよりの発行、読書週間での「おすすめの本の紹介」等の取組を継続して行っていく。</p> <p>◆今後も授業、児童会活動など、いろいろな場面において、児童の表現力の育成を図っていく。</p> <p>◆児童の体力向上や健康指導というねらいのもと、今後も体育の授業、縦割り班での遊び、長縄大会等の取組、保健の授業、定期的な保健だよりの発行等、工夫していく。</p>

3 まとめ

<成 果>

☆教職員自己評価，保護者アンケート，児童アンケートとも，全体的に肯定的に評価されており，学校教育目標，学校経営目標を達成できたのではないかと考える。

- ・教職員の共通理解のもと，充実した教育活動の取組
- ・児童一人一人の学力向上を育む授業実践
- ・友達と仲良くし，進んで学習し，生き生きと学校生活を送る児童の姿

<課 題（いっそう充実させたい事項）>

★評価項目の一つ一つが教職員に課せられた目標であるという認識を確かなものにして，学校，保護者，地域が連携しながら，引き続き，豊かな教育活動の推進を図っていきたい。

- ・学校，家庭，地域が連携，協働した教育活動の推進（コミュニティ・スクール）
- ・困った時には，児童が友達や教職員に，保護者が教職員に相談できる，より確かな信頼関係の構築（いじめ，不登校への適切な対応）
- ・ICTを活用した効果的な授業，個別最適な学び，協働的な学びの実践
- ・ICTを活用した校務の合理化，効率化の推進，働き方改革を意識した教職員の業務改善